

ご挨拶



令和5年度 東海支部 支部長

鍋田 和宏（昭和59年卒 42期 電気）

令和5年3月の理工学部同窓会東海支部総会において、支部長を拝命しました鍋田でございます。これから、東海支部のさらなる活性化に取り組みたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

さて、東海支部は、昭和51年に、「支部会員相互の親睦を厚くし知識の交換を図る」、および「慶応義塾の興隆に寄与する」を目的に、愛知県、岐阜県、三重県に在住する同窓会員を対象に設立されました。その後、静岡県西部同窓会（浜松市周辺）とも協調しながら、支部活動を展開してまいりました。年に一度の支部総会では、理工学部の最新動向やお越し頂いた先生から講演を聴くなど塾との情報共有を図り、その後の懇親会では同窓会本部や先生方と、あるいは会員相互で、現況や学生時代の思い出、最新の技術動向などについての語り合いの場となっております。そして、会員のお世話により、関係する事業場や施設などへの家族連れ見学会も開催しております。しかしながら、最近は、コロナ渦により、これらの活動を制限してまいりましたが、今年度は4年ぶりに対面での総会を開催し、また、今後の状況を見ながら家族連れ見学会についても開催を計画してまいります。

当支部の活動は、鈴木前支部長をはじめ諸先輩方のご尽力により、参加する会員の所属企業や年齢層も広がっています。東海支部は物づくり地域にふさわしく、多くの理工学部卒業生が多様な企業で活躍されております。前支部長から引き継ぎ、若い方々から大先輩までさらに多くの方々が参加し、一層親睦を厚くできる場づくりに努めてまいります。

「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」で始まる「学問のすすめ」は、明治5年（1872年）に第一編が出版され、令和4年（2022年）は150年目の節目にあたります。同編は二十万冊以上売れ、国民の160人に一人がこの本を読んだこととなり、

最終の第十七編までを合本した際の「はじめに」において、いかに日本人が本を読むようになったかと、振り返られています。一人ひとりが学問を学び実学を身に着け、国に対してでも天理人情にかなうものなら、また国が他国から侮辱されようものなら、命をなげうってでも闘う、それが「一身独立して一国独立する」ことであると述べています。私たちが学んだ慶應義塾とは、このような気風を持った大学であったと、今さらながら思い出しました。

最近、慶應義塾出身の方とお話する機会を数多く持つことができました。この時、たとえ理工学部の方でなくとも、三田会であるとわかるとそれだけで親しく受け入れていただけることが多くあります。慶應義塾とは、卒業してからもっと良い大学になっていく所以であり、これを伝えていくことも東海支部の大きな役割だと考えておりますので、皆さまとともに、より多くの方に参加いただける魅力ある支部活動を目指してまいります。

以 上